

アジアでがんを生き延びる

未曾有の感染症、欧州に戻ってきた戦争、歴史の転換点にあるともいえる今
世界は大きく変動していく

しかしながらどのような危機の中にあっても、人類はがんという病から逃れられない

このような時代だからこそ、あらためて問いたい

人が生き延びるということにおいて、がんというやまいは、

どんな意味をもつのだろうか

固有性と多様性に富むアジアで、未来に大きな影響をもたらす「がん」という
アポリアに、医療・文化・経済・テクノロジー・外交など、多分野の専門知を統合
することで挑戦するプログラムである
受講者の目標としてはアジアのがんの現状とUniversal Health Coverage
(UHC)の概念の意味を理解し、今期はマレーシアをフィールドにしてUHCが
アジアのがんにもたらす意味を考察する
講義の最終日には自らの専門分野に引き寄せて、ひとががんという共有課題を
抱えながらもよりよく生きる在り方について発表し、異なる分野と問いを共有
し知的生産を行っていく、学際研究の難しさを体験する

開講科目名 / Course 医学共通講義XXI /
General Lecture in Medical Sciences XXI
時間割コード / Course Code 41211121
担当教員 東京大学大学院医学系研究科衛生学分野教授 石川俊平

開講科目名 / Course 地域文化研究特殊研究III
時間割コード / Course Code 31M220-1352S 31D220-1352S
担当教員 東京大学東洋文化研究所教授 園田茂人
東京大学東洋文化研究所特任准教授 河原ノリエ

夏学期 WEB授業 | オンデマンド | 水曜日 6限 19:00-20:30 | 2単位 再履修可能

4/13 ガイダンス「アジアでがんを生き延びるための学際研究
cross-boundary cancer studiesを
マレーシアを題材に学ぶ」

加瀬 郁子 がん研究会がん研究所特任研究員



4/20 学際研究がもつ可能性
(アジアがん学際研究の基礎知識①)

園田 茂人 東京大学東洋文化研究所教授



5/11 がんの基礎知識を学ぶ
(アジアがん学際研究の基礎知識②)

中釜 斎 国立がん研究センター理事長



5/18 アジアを俯瞰する
(アジアがん学際研究の基礎知識③)

横井 裕 前駐中華人民共和国特命全権大使
元マレーシア大使館公使



野田 哲生 がん研究会がん研究所所長
UICC-ARO Director

5/25 医療負担とがん(マレーシアの実情について)
Dr Murallitharan Munisamy

マレーシア対がん協会主任研究員

モイ・メンリン 東京大学大学院医学系研究科
(英語字幕付) 国際生物医科学講座 発達医科学 教授



6/1 アジアヘルスケアが切りひらく未来

稲邑 拓馬 経済産業省ヘルスケア産業課課長
坂野 哲平 株式会社アルム代表取締役



6/8 アジアの食生活と食文化

服部 幸應 服部栄養専門学校理事



6/15 アジアのがんとサイエンス

石川 俊平 東京大学大学院医学系研究科
衛生学分野教授



6/22 地域コミュニティの力とサステナビリティ

河原ノリエ 東京大学東洋文化研究所
特任准教授



飯野 伸吾 アステラス製薬コーポレート・
アドボカシーサステナビリティ部長



6/29 マレーシアの現場より(最終課題を組み立てる前に現場の生の声を聞く)
マレーシア対がん協会の実践と課題(英語字幕つき)
マレーシア対がん協会会長

7/13, 7/20 学生発表

2011年から続いた全学横断型連携教育プログラム「アジアでがんを生き延びる」は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを学問的考察の端緒とする「Cross-boundary Cancer Studies」として継続している。東洋文化研究所においてなされるUICC-AROとのアジアがんUHC政策研究の一環としてUICC-AROからの後援も継続している

UICC-ARO
UICC ASIA REGIONAL OFFICE

